

静岡空襲日米合同慰霊祭

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）はこのほど、賤機山山頂（静岡市）において行われた「第44回静岡空襲日米合同慰霊祭」に参加した。

この慰霊祭は「死んでしまえば敵も味方もない」との崇高な想いから、静岡市街の空襲で犠牲となった約2,000名もの市民等と、空中衝突して墜落した米軍爆撃機B29搭乗員23名を追悼する目的で、僧侶の伊藤福松氏（故人）とその意志に共感した医師の菅野寛也氏により1972年より毎年開催されてきた。

当日は、追悼に訪れた犠牲者の遺族、自衛隊、在日米空軍など日米両国の関係者ら約200名が参列し、両国犠牲者への供養を行った。来賓挨拶では、自衛隊代表の根本本部長及び米国代表のケネス・E・モス米空軍横田基地司令から、日米両国の強固な友情の絆、そして末永い平和への願いが述べられた。

これまで40年以上の長きに渡り市民の手によって続けられてきたこの慰霊祭の意義は大きく、一昨年は、その返礼として米国政府よりハナミズキの苗木が寄贈された。こうした経緯を踏まえ主催者である菅野氏は「この合同慰霊祭が日米親善、世界平和の第一歩と既になっていることを確信している」と述べた。

静岡地本は、平和を願う日米双方の方々とともに、すくすくと静岡の地で育つハナミズキの花がいつの日か咲き開くのを心待ちにしている。



しずぽんと新型戦闘車がコラボ

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、7月3日（日）、富士駐屯地において「富士学校・富士駐屯地開設62周年記念行事」の広報活動を実施した。

記念式典での機動展示では、陸上自衛隊において装備されている74式・90式・10式の各戦車がそれぞれの特性ある能力を展示し、来場者を賑わせた。また、ふれあい広場ではエア遊具、ロープ体験、富士学校音楽隊の野外演奏など子供連れの家族を大いに楽しませていた。

静岡地本は、資料館とふれあい広場の二手に分かれて広報活動を行い、資料館では、制度説明のほかにパソコンを使った適職診断などを実施し、楽しみながら自衛隊への興味を深化して頂くための工夫をこらし、広報活動を行った。

一方、ふれあい広場では、自衛隊のフェイスペイントなどの広報企画が人気を博したほか、静岡地本のマスコットキャラクター「しずぽん」が登場して大勢の子供たちと触れ合うとともに、富士地区初公開の「機動戦闘車」の試作車両と一緒に写真撮影するなど、7月22日（金）から始まる「ゆるキャラGPP2016」の投票へ向けた広報活動を行った。

静岡地本は、今後も「しずぽん」をきっかけとした自衛隊への興味や関心の振起に努め、防衛意識の向上を図っていく。

